

新潟地方気象台の3か月予報に基づく農作物等の管理対策（第3報）

平成27年6月3日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台から平成27年5月25日に発表された「北陸地方 3か月予報」によると、6月の気温は平年並みまたは高くなる確率が40%で、期間の後半は曇りや雨の日が少ないと予想されています。

また、降水量は平年並みまたは少ない確率ともに40%です。

今後の気象変動に十分留意し、下記の管理対策の徹底をお願いします。

記

1 水稲

- (1) ワキの発生が多い水田では、早急に水の更新や夜間落水を行い、根腐れや生育停滞を防止し、早期に茎数を確保する。
- (2) 6月は晴れの日が多く、降水量は平年並みか少ないと予想されている。このような気象では、生育の進みが早まり、中干しの開始が遅れると生育過剰になりやすいので、適期中干しにより適正な生育量に調節し、穂肥が規定量施用できる稲姿にする。
- (3) 中干しは、茎数が目標穂数の80%程度を確保した時期で、移植後30日をめやすに早めに開始し、溝切りも確実に行う。特に、こしいぶきや連休に田植えしたコシヒカリは、遅れないように注意する。また、生育過剰になりやすい場合は、早め・強めの中干しを徹底する。
※ 中干しの遅れは、生育の後ずれを助長し、梅雨時期の天候不良が重なると、6月下旬から7月上旬の最高分けつ期の葉色が濃くなり、草丈の伸長による倒伏の危険から穂肥が施用できなかったり、逆に穂肥時期に急激な葉色低下を起こしたりする危険性が高まる。
- (4) 7月は曇りや雨の日が平年並みから多いと予想されていることから、いもち病発生の好適条件が出現しやすいと考えられる。いもち病多発生地域でコシヒカリBLに育苗箱施用剤や側条施用剤による葉いもち防除を実施していない場合は、必ず適期に本田で予防剤を施用する。
- (5) 同様に、わたぼうし等のいもち病に対する抵抗性が弱い品種を作付けた場合、大豆跡等で生育過剰になることが予想される場合及び新潟次郎等における多収穫栽培の場合は、予防剤を施用し葉いもちの発生防止に努める。

2 大豆

- (1) は種は5月下旬から6月20日頃までに行う。は種が6月11日以降になる場合は、個体の生育量が小さくなるため、は種密度を高め、面積当たりの生育量を確保する。

- (2) 7～8月は曇りや雨の日が平年並みから多くなると予想されていることから、梅雨時期を迎える前の準備として、湿害防止のため、周囲明きよの手直し、排水口を掘り下げる、暗きよ栓を開くなど、早めに排水対策を行う。
- (3) 除草、倒伏防止並びに根系の発達による生育促進を図るため、ほ場条件の良い時を逃さず、適期2回の中耕・培土を実施する。1回目は第2複葉展開期頃（は種後25日頃）に子葉節まで、2回目は1回目の2週間後頃に初生葉節まで土を寄せる。
中耕・培土後は畦間を明きよにつなぎ、停滞水の発生を防止する。
- (4) 降雨等により中耕・培土が遅れ、雑草による被害が懸念される場合は、雑草の草種に応じた生育期除草剤で対応する。

3 大麦

- (1) 本年は出穂が早まったことから、収穫時期も地域によっては6月第2半旬頃に早まることが予想されるため、適期収穫が実施できるよう、収穫・乾燥作業体制を早めに整える。
- (2) 早刈りによる未熟粒、空洞粒、刈り遅れによる退色粒の発生を防止するため、穀粒水分を確認し、気象条件を見極めて適期収穫に努める。
- (3) 赤かび粒の混入を防ぐため、事前ほ場巡回（出穂30～35日頃）、荷受け時の混入確認を行う。多発ほ場では収穫・乾燥・調製を正常麦と区分して実施する。
- (4) 熱損粒や赤かび粒の増加を防止するため、収穫後は迅速（収穫後4時間以内）に乾燥を開始する。
- (5) 細麦の混入を防止するため、ふるい目は2.3mm以上を使用し、粒の選別を徹底する。

4 園芸作物共通

- (1) 6月は晴れの日が多く降水量は平年並か少ないと予想されていることから、ほ場が乾いている場合は、適宜畦間かん水やスプリンクラーかん水を行う。
- (2) 今後、降雨が多くなった場合、排水不良ほ場では、雨水の停滞により湿害や病害の発生が助長されるので、速やかに排水できるよう、明きよや排水口をあらかじめ点検・整備する。
- (3) 気温の上昇に伴い、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類などの害虫の多発生が懸念されるので、発生状況に応じて迅速に防除する。
なお、高温時は葉害の恐れがあるので、薬剤散布の際は注意する。
- (4) 施設園芸作物では、降雨や日照不足となると灰色かび病等が多発する恐れがあるので、換気による湿度管理や、り病葉及びり病果の除去など、耕種的防除を徹底する。

5 野菜

- (1) きゅうり、トマトなどの施設栽培では、草勢を維持するため、かん水や追肥を適切に行う。また、日照不足が続いた後に天候が急激に回復すると高温障害が発生しやすいので、遮光や換気などにより適切な温度・湿度管理に努める。
- (2) いちごは、高温期で果実の品質低下が著しいので、果実の日持ち向上とオセ・スレの発生を防止するため、過熱に注意し適期収穫と収穫後の丁寧な取り扱い、予冷库の活用等を徹底する。

- (3) 収穫期のそらまめは、気温の上昇に伴い熟度が短期間で進むので適期収穫に努める。
- (4) アスパラガスは、乾燥が続くと萌芽数が減少するので、チューブかん水や畦間かん水を行う。また、前年病害により早期に枯れ上がりしたほ場では、過収穫に注意し天候が安定している時に立茎を開始し、防除に努める。
- (5) すいか・メロンのトンネル作型では、着果安定に向けて交配前後の保温に努める。すいかの密閉作型では低節位着果に注意し、草体を確保してから適正な着果位置につける。また、除覆後は定期的に防除する。
- (6) 露地えだまめは、降雨時の停滞水が生じないように、排水対策を講じる。また、フタスジヒメハムシやべと病が増加する時期となるため、防除を徹底する。
- (7) ねぎは、生育適温に入っているため肥料切れや土壌の乾燥に注意する。夏ねぎ作型では、本格的な降雨に備えて過度な土寄せに注意し、溝切りなどを行っておく。また、梅雨期には病害が発生しやすいので予防的防除を行う。
- (8) オオタバコガの発生が早いので、予察情報等を参考に適期の薬剤散布に努める。

6 果樹

- (1) 露地栽培では、各樹種とも平年より早く生育が進んでいる。結実の判明した樹種から摘果作業を行い大玉生産に努める。また、新梢管理も伸長状況にあわせて、誘引等の作業が遅れないように適期に行う。
- (2) ぶどう等の施設栽培でも平年より早い生育状況であることから、作業が遅れないように注意し、生育ステージに応じた温度管理を行う。
- (3) 各樹種とも病虫害の重点防除期を迎えているので、発生予察情報等を参考に計画的防除に努める。降雨が続く場合でも、極力散布間隔があかないように留意するとともに、原則として降雨前に散布を行う。

また、なし輪紋病やセイヨウナシ褐色斑点病、ぶどう晩腐病対策として早めの袋かけを実施し、あわせてももせん孔細菌病やキウイフルーツかいよう病対策として防風対策を行う。
- (4) 凍霜害の被害を受けた樹では、摘果は形状や外観をよく確認して作業を進める。また、着果量が不足している場合は樹勢が強くなることが懸念されるので、新梢の誘引等の新梢管理をこまめにしていねいに実施する。

7 花き

- (1) チューリップなどの球根養成では、収穫まで土壌水分を適正に維持するため、天候や土質等に応じたかん水を行う。収穫は、茎葉の枯れ込みと球根外皮の着色等を確認し、適期に行う。
- (2) 露地切り花やユリ球根養成等では、気温の上昇や降雨に伴い病虫害の発生が多くなるので、発生状況をふまえて適切に防除する。
- (3) 施設切り花及び鉢物は、梅雨の晴れ間の強日射や急激な温度上昇により、葉焼け等の生育障害が発生しやすくなるので、遮光や換気により温度・湿度を適切に管理する。

8 畜産

(1) 家畜管理

ア 天気予報に注意し、急な気温上昇に伴う家畜疾病を予防するため、換気・送風・寒冷紗・屋根への塗装等の暑熱対策を早めに準備する。

特に、換気扇、送風機は支障なく稼動するよう、ほこりを落とし、ベルトの張り、注油などの点検を行い、電気系統の具合もチェックする。(掃除をすることによって、風量も含めて効率がアップする。)

イ 開放畜舎では、開口部はできるだけ開放し、空気の流れを妨げるものを除去して、通風をよくする。

ウ 搾乳牛は畜舎内の温度が20℃を超えたら暑熱対策を実施し、家畜の体感温度の低下に努める。

エ 家畜の観察を励行するとともに、餌槽や飲水設備をこまめに清掃・点検し、新鮮な飼料・飲水が確保されるように努める。

オ 良質な飼料給与により食欲低下を防止する。

カ 飼料は風通しの良い日陰に保管し、カビの発生、腐敗に注意する。カビの発生や腐敗などが見られる飼料は、家畜の安全のため給与しない。

キ 高温時のミネラル、ビタミン及び重曹の給与は疲労防止に効果があるので、家畜への慣らし給与を始める。

(2) 飼料作物の管理

ア 牧草は、刈遅れないように収穫し、2番草の生育確保のためすみやかに追肥を行う。

イ 牧草のサイレージ調製は、良好な発酵を促すため予乾を行い、水分50～65%となるよう努める。

ウ 飼料用トウモロコシは、収量の確保のため6月上旬までは種に努め、排水不良のほ場においては湿害防止対策として、周囲に明きょを施す。

除草は、は種時の覆土・鎮圧完了後に土壌処理剤を全面散布し、トウモロコシ展葉後は必要に応じて茎葉処理剤を散布する。